

平成20年度事業 多摩市市民提案型まちづくり事業補助金

成果報告書



多摩市 くらしと文化部市民活動支援課

平成 21 年 8 月

目次

「多摩市市民提案型まちづくり事業補助金」の概要.....	1
審査・評価の方法	1
審査委員(第2期).....	2
平成20年度応募事業の経過	3
平成20年度 多摩市市民提案型まちづくり事業補助金 交付額・精算一覧表.....	4
各事業の成果(以下事業名)	
<u><チャレンジ部門></u>	
(1) ニュージーランド・中学生語学研修.....	5
(2) 実践的かつ自律的な自主防災活動を.....	7
(3) 多摩市における「市民協働」の研究と研究成果の公刊	9
(4) 貝取こぶし館内外及びその周辺の美化と癒しの環境づくり	11
<u><ステップアップ部門></u>	
(1) ひじり館を花いっぱい「和みの広場」に.....	13
(2) 運動会、レクリエーション等の立案企画とその実施(連光寺/聖ヶ丘)	15
(3) 第18回映画祭 TAMA CINEMA FORUM	17
(4) 「多摩」を音楽で溢れる街にしようプロジェクト ver3.0	19
(5) 小学校にホテルを蘇らそう.....	21
(6) こども古典芸能体験教室	23
(7) 運動会他 イベントの企画・立案とその実施(貝取地域)	25
(8) 市民製作映画『多摩ニュータウンわたしの街』上映	27
(9) 2007年アジア・太平洋女性国際会議の報告会.....	29

募集!

多摩市市民提案型 まちづくり事業補助金

多摩市のまちづくりに役立つ事業を応援します。

市民提案型まちづくり事業補助金は、福祉、子育て、文化、環境などの特定の分野やテーマの限定はありません。一過性の事業ではなく、その後の事業展開を通じ継続して多摩市に定着させることを目指し、さらなる広がりを期待させる公益性のある事業に対して、その事業費の一部を補助します。

事業内容からチャレ

チャレンジ部門とは?

事業の見通しが不透明
苦労する、初期の段階を

- ・ 補助対象経費の8割
- ・ 限度額：30万円
- ・ 2回(2年間)まで

募集期間・受付場所は?

募集期間：平成19年
受付場所：市民活動推

応募資格・補助対象事業

応募できる団体は、
補助対象事業は、市
いことなどが要件とな
の間に実施される事業
その他詳しくは募集

募集要項・申込書の配

配布期間：平成19年
配付場所：市役所2
市民活動
永山公民
多摩セン
NPOセ
公式ホー

平成20年度 市民提案型まちづくり事業補助金 公開プレゼンテーション!!

平成20年度「市民提案型まちづくり事業補助金」は、市民団体が自主・自発的に行う、多摩市のまちづくりに役立つ事業に対して、その事業費の一部を補助するものです。



各団体から提案され、
と、「公開によるプ
て、補助金交付の優

当日は、各
の展示もあり
皆さんも各
ご覧になり、
を一緒に考え
多数のご来



プレゼンテー
の評価市民委員
審査会

市民提案型まちづくり事業補助金 20年度成果報告会

とき：平成21年8月2日(日)
場所：関戸公民館市民ロビー
市民活動情報センター(聖蹟桜ヶ丘ヴィータ7階)

【第1部】 成果報告：関戸公民館市民ロビー

(1時~3時)

平成20年度にまちづくり補助金を使って市民のためにどんなことができたのか・・・各団体の活動経過と成果を皆さんに報告します。いろんな活動を知るチャンス!! みんなで応援しよう!!

来場者の投票により、
本補助金の愛称を決定します!!

あなたの投票
で決定します!!



【第2部】 情報交換会：市民活動情報センター

(3時20分~5時20分)

<テーマ> 事業成功のヒントがあるかも!

(事業を成功させるために、みんなの意見を聞いてみよう)

事業を進めるための苦労や創意工夫していることなど、情報交換するなかで何かのヒントが発見できるかもしれません。そして、団体同士のネットワークづくりの絶好のチャンスです。

COME ON!

1・2部とも手話通訳者付です



【主催・問合せ】 多摩市くらしと文化部
市民活動情報センター

住所 〒 206-0011

多摩市関戸4-72 聖蹟桜ヶ丘ヴィータ7階

TEL 042-376-8312

FAX 042-339-0491

第2期「多摩市市民提案型まちづくり事業補助金評価市民委員会」

(敬称略)

委員 長	： 炭谷 晃男	学識経験者	（大妻女子大学教授）
副委員 長	： 松本 祐一	学識経験者	（多摩大学総合研究所 准教授）
委員	： 小澤 尚子	学識経験者	（小澤税理士事務所 所長）
委員	： 寺田 桂子	学識経験者	（フラワーオフィス草苑代表）
委員	： 遠藤 ちひろ	公募市民	
委員	： 菊池 武信	公募市民	
委員	： 東 操	公募市民	

「多摩市市民提案型まちづくり事業補助金」の概要

この補助金は、市民団体が自主・自発的に行う、多摩市のまちづくりに役立つ公益的な事業に対し、事業の経費を一部補助するもので、多摩市に「新たな支え合い」の担い手を多数創出して、地域の公共サービスを豊かに展開していくことを目指したものです。

補助対象事業は公募方式により募集し、第三者機関（多摩市市民提案型まちづくり事業補助金評価市民委員会）による厳正な審査を経て決定します。

平成 20 年度審査・評価の方法

予備審査：（形式審査）

必要要件の不備がないか等の形式審査

本審査（書類選考・プレゼンテーション）

以下の基準に基づき審査し、交付の優先順位を決定します。

（平成 20 年度事業の募集から審査・評価の方法を一部改正しました。）

【補助対象事業の基準】 か×で評価する。過半数の委員が×の場合は、選外となる。

項目	対象事業	内容
補助金交付の公益性	チャレンジ部門 ステップアップ部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く多摩市民に開かれた事業であること ・ 事業の効果が不特定多数の市民に広く及ぶこと。サービスの対象者だけでなく、他の市民や他の地域、社会全体への「広がり」や「波及効果」が認められること。 ・ 事業あるいは本補助金の主たる受益者が、応募団体の構成員や特定の人を対象となる事業でないこと。
事業の継続性	ステップアップ部門のみが評価の対象となります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで継続してきた事業をさらに発展させ、広げ、定着させていくことを目指した内容であること。 ・ 申請内容がイベントや調査などの単発型事業の場合でも、まずベースとなる継続事業があり、申請内容がベースとなる事業のその後の事業展開に有効であることが認められること。

【事業についての基準】 各委員が各項目 5 点満点で評価します。

項目	対象事業	内容
事業の目的と効果	チャレンジ部門 ステップアップ部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の目的と効果が明確か。 ・ 時代の要請や社会状況、市民ニーズに即したもののか。 ・ 市民の税金を使ってその事業を支援することについて、広く市民の共感が得られ応援したくなる内容か。
実現性	チャレンジ部門 ステップアップ部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該年度の事業が、実現可能な方法、スケジュール、予算で立案されているか。

期待度	チャレンジ部門のみが評価の対象となります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発送、着眼点、手法などに市民ならではの先駆性や独創性、工夫があり、今後の展開に期待がもてる事業か。 ・ 今後継続し、定着させていくことを目指す事業か。 ・ 申請内容がイベントや調査などの単発型事業の場合でも、その後の展開に有効であることが期待できるか。
自立性	ステップアップ部門のみが評価の対象となります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本補助金が終了した後、その事業をどのように継続していくかの事業計画・資金計画が明確で妥当か。 ・ 本補助金だけに頼らない資金確保に努めているか。 ・ 自立に向けて、一般市民や他の市民団体、企業などとのネットワークを広げ、連携し、巻き込んで行く視点があるか。

【団体の基準】 各委員が各項目 5 点満点で評価します。

項目	対象事業	内容
団体の適正等	チャレンジ部門 ステップアップ部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営が閉鎖的でなく、広く開かれた組織か。 ・ 申請する事業を行うにあたって適正な規模内容を保有しているか。 ・ 事業の規模に見合った自己負担能力を有しているか。

【プレゼンテーション】

関戸公民館（ヴィータ）の市民ロビーにて、公開によるプレゼンテーションを実施します。書類審査を重要視しますが、書類上読み取れない点や疑問点についてはプレゼンテーションを参考に評価します。各委員は、上記審査項目単位に素点を振り、順位を決定します。（審査委員の過半数が×の評価を付けた事業は、選外となります。）

各委員の順位を平均したものが、委員会としての『補助金交付の優先順位』となります。

審査委員(第2期)任期:平成 19 年 8 月 23 日から平成 21 年 8 月 22 日まで

委員長：炭谷 晃男 学識経験者（大妻女子大学教授）
 副委員長：松本 祐一 学識経験者（多摩大学総合研究所 准教授）
 委員：小澤 尚子 学識経験者（小澤税理士事務所 所長）
 委員：寺田 桂子 学識経験者（フラワーオフィス草苑代表）
 委員：遠藤 ちひろ 公募市民
 委員：菊池 武信 公募市民
 委員：東 操 公募市民



平成 20 年度事業の経過

説明会：19年8月26日（ベルブ永山）、8月29日（総合福祉センター）、9月1日（NPOセンター）、9月5日（ボランティアセンター永山分室）、9月7日（市民活動情報センター）にて本補助金の主旨や申請に関する説明会を開催し、延べ10団体13名の参加者がありました。

募集・受付：平成19年9月3日から10月5日まで
チャレンジ部門に4事業、ステップアップ部門には11事業（合計15事業）の応募がありました。

書類審査：平成19年11月6日、11月26日

応募事業のパネル事前展示：平成19年11月23日から12月1日

公開審査：公開プレゼンテーション：平成19年12月2日（日）関戸公民館市民ロビー

- 各事業8分+質疑応答7分（合計15分）で、15事業のプレゼンテーション及び審査を行いました。
- 応募15事業全て交付すべきとの結果となりましたが、審査後に2件申請取り下げがあり、総額8,132,000円を交付しました。



応募事業の実施：平成20年4月1日～平成21年3月31日

成果報告会：平成21年8月2日：関戸公民館市民ロビー

13事業の参加により成果報告会及び情報交換会を実施しました。

決算額13事業の総合計：7,025,000円

5ページ以降に各団体の活動内容・自己評価表、収支決算の内訳表を掲載しています。

平成20年度 多摩市市民提案型まちづくり事業補助金 交付額・精算一覧表

(単位:円)

(チャレンジ部門)

優先順位	整理番号	事業名 (団体名)	希望補助額 (円)	希望補助率	概算交付額 (円)	決算額 (円)	応募事業内容(概要)
1	C-2	実践的かつ自律的な自主防災活動を (東寺方自治会)	160,000	80%	160,000	158,000	関東大震災級の大地震を想定して、水道・電気を使わない炊き出し訓練を行い災害の対応力を養う。また、日を改めて防災講習会を実施する。
2	C-3	多摩市における「市民協働」の研究と研究成果の 公刊 (多摩自由大学)	300,000	80%	300,000	300,000	「多摩市における市民協働」を公開講座で研究・討議し、包括的な研究と提案を行い、その内容を冊子として公刊する。
3	C-4	貝取こぶし館内外及びその周辺の美化と癒しの環 境づくり (貝取こぶし館 緑花委員会)	205,000	80%	200,000	200,000	地域から公募した緑化委員が、貝取こぶし館周辺(施設外)の花壇や法面等の整備と維持管理を行う。また、地域住民を対象に「挿し木の講習会」などを実施して、この事業に対する関心と美化に対する意識を高揚させる。
4	C-1	ニュージーランド・中学生語学研修 (NPOスポーツ文化国際交流協会)	300,000	80%	260,000	260,000	多摩市・近隣市の中学生を対象に、ニュージーランドへホームステイしながら語学研修と交流を行い、相互の異文化を体験しながら理解促進に寄与する。 (補助金の申請部分は、事前の募集と事後報告会に関する費用)
小計			申請件数:4件、交付決定件数:4件		965,000	920,000	918,000

(ステップアップ部門)

優先順位	整理番号	事業名 (団体名)	希望補助額 (円)	希望補助率	概算交付額 (円)	決算額 (円)	応募事業内容(概要)
1	S-4	第18回映画祭TAMA CINEMA FORUM (TAMA映画フォーラム実行委員会)	2,500,000	15%	2,375,000	2,375,000	日本映画の活性化と市民による「映画・映像」を通した「まち」づくりを大きな目的として、若手映像作家の発掘と映像の街・TAMAを全国にアピールし、活気あふれる街にする。
2	S-6	「多摩」を音楽で溢れる街にしようプロジェクト ver 3.0 (Artists Link Tama)	700,000	50%	700,000	508,000	「多摩＝音楽に溢れた街」という街のブランドイメージを内外へ積極的に発信していくために、地元の商店街や各種NPO団体との連携を図り、イベント企画や運営サポートなど行う。また市民に音楽を演奏できる場を提供するためのバンド運営を行う。
3	S-7	小学校にホテルを蘇らそう (東寺方自治会)	180,000	60%	180,000	84,000	自治会を中心として東寺方小学校児童、その父兄、近隣中学校の協力のもと谷戸池にホテルを増やし、自然環境の意識啓発、家族・地域連帯の絆を強める一助とする。
4	S-2	第21回文庫展 子どもと本の広場 -本の世界で遊 ぼう (多摩市文庫連絡協議会)	238,000	60%	238,000	20年5月 申請取り下げ	文庫活動を多くの入達に伝えるために「第21回文庫展」を開催する。 絵本の原画を見たり絵本作家の講演を聴くことで絵本のすばらしさを感じてもらいお話を通じてお話の楽しさを体感してもらおう。
5	S-3	運動会、レクリエーション等の立案企画とその実施 (連光寺/聖ヶ丘地域スポーツ振興会)	190,000	42%	183,000	183,000	連光寺及び聖ヶ丘地域のスポーツ、及びレクリエーションの普及・振興を通じて地域住民のコミュニケーションと健康促進をはかる。
6	S-1	ひじり館を花いっぱい「和みの広場」に (聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会)	150,000	58%	130,000	130,000	季節に応じた花苗や球根の植え込み・育成を中心に花壇や法面を利用した「山野草園」の維持・管理を行う。また、地域住民を対象とした「自慢の一鉢コンテスト」や「鉢植え体験教室」などを開催してこの事業への関心を高める。
7	S-9	運動会他 イベントの企画・立案とその実施 (貝取地域スポーツ振興会)	202,000	50%	202,000	202,000	貝取地域を中心に(誰でも参加できる体制)、地域住民のコミュニケーションと健康促進を図る目的に、ソフトボール大会・運動会・歩こう会を実施する。
8	S-10	市民製作映画「多摩ニュータウンわたしの街」上映 (多摩ニュータウン映画製作委員会)	2,500,000	60%	1,835,000	1,195,000	「発信しよう!ふるさとニュータウンの元気と誇り」をテーマとし、ドキュメンタリー映画「多摩ニュータウンわたしの街」を広く全国で上映する。全国に先駆け市内・近隣市で上映会を開催する。
9	S-8	こども古典芸能体験教室 (多摩市古典芸能に親しむ会)	987,000	60%	807,000	807,000	多摩市内の小・中学生、父母、教師を対象に、古典芸能のブロによって和楽器や日本舞踊などの古典芸能をわかりやすく紹介しながら、演奏・日本舞踊などを体験してもらう。
10	S-5	住民がつくる安全なまちプロジェクト (NPO夢のマネージメント社)	373,000	60%	19年12月 申請取り下げ	-	住民が生活の中でできる防犯対策を住民自身の活動で周知し、被害を減少させることを目的として、犯罪事例から演劇のシナリオと犯罪の解説をつくり公演とインターネットで周知する。
11	S-11	2007年アジア・太平洋女性国際会議の報告会 (プログレス・ジャパン)	1,588,000	60%	800,000	623,000	平成19年に開催した国際会議のテーマ「持続可能な社会づくりのための女性の役割」について報告書を作成し併せて報告会を開催する。
小計			申請件数:11件、交付決定件数:10件、決算件数:9件		9,608,000	7,450,000	6,107,000

応募時点	合計 15件	10,573,000				
審査時点	合計 14件(審査後に1件申請取り下げ)	10,573,000		8,370,000		
交付決定 (決算時点)	合計 13件(交付決定後に1件取り下げ)	9,962,000		8,132,000	7,025,000	

事業名	ニュージーランド・中学生語学研修
団体名	NPOスポーツ文化国際交流会
事業の目的	日本のそして多摩市の将来を担う子どもたちに、早くから国際感覚を持たせ、感性豊かな人材を育てることがこの事業の大きな目的であり夢です。現地では思うように会話が出来なくても、くやしい思いをして帰国後英語に目覚めて英検にチャレンジする子どもが多く見られます。この事業が「子どもの向上心」の大きなキッカケになっていると思われ、目的は達していると思います。
主な事業実施内容	20年4月:募集ポスター、チラシを配布 20年5月:説明会開催、広報活動 20年7月:事前研修 20年7月23日～8月5日:語学研修(ニュージーランド・ハミルトン市) 21年1月:報告会
参加者	8名(高校1年:1名、中学生:6名、小学生:1名)
事業の成果	<p>事前に行った公立・市立中学校へのパンフ配布においては、各学校の私たちへの対応は、一般の業者と同じ扱いを受け、学校を通じて家庭までパンフの内容主旨がほとんど届かなかった。教育委員会後援、まちづくり事業対象の事業であるとのPR浸透が徹底出来なかったのが苦戦の要因と反省、今後に向けての大きな課題となった。</p> <p>ハミルトンにおける研修は、非常に大きな成果をあげた。特に全く英会話が出来ない子どももホストファミリーの暖かいサポートで、真剣に英会話に取り組むようになり、帰国後一人ひとり大きな成長をしているのがこの事業を継続する意義と思う。</p>

総事業費	3,807,091 円
補助対象経費	325,898 円
補助額	260,000 円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	もっと市民に周知する広報方法を考えてほしいという声がかかりあった。学校を通じてPRを図ったが、業者と同じ取り扱いで、ほとんど家庭まで浸透できなかった。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	事業内容は現地とタイアップして、充実したものになっているので、いかに家庭にPRを浸透させ予定通りの参加者を集めるかが重要課題である。民間への移行は、ただ民間へ投げ出すだけでは、官民協働にはならない。積極的な市当局の支援(金銭面だけでなく)が大きな課題である。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	家庭への浸透さえ可能な状況になれば、冗費はかなり削減できる。市当局の絶大な協力を期待する。研修内容は座学より、スポーツ交流に重点をおき、楽しみながら会話を覚える方法に逐次改善していく。ホームステイの内容も好評であるが、さらなる改善を図りたい。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
自己資金(負担)	65,898 円	
まちづくり事業補助金	260,000 円	
収入合計	325,898 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	287,565 円	ポスター、チラシ、報告書など
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	9,500 円	永山公民館、総合体育館会議室
保険料等	0 円	
その他必要な経費	28,833 円	広告費、図書費、振込み手数料
補助対象経費合計	325,898 円	

事業名	実践的かつ自律的な自主防災活動を
団体名	東寺方自治会
事業の目的	広域災害での対応力を自治会の自律的な力でアップさせ、その経験を蓄積し、自らの地域の有事に活用することとする。その経験を他の地域に伝播して、多摩市全体にこのような地域の災害対応力が芽生え、強まることを願っての提案。
主な事業実施内容	11月30日:10時に4箇所に集合し東寺方小学校に避難行進 ・炊き出し訓練、給水訓練、消火器訓練、AED取扱い訓練、消防団第6分団の放水訓練、レスキュー隊の演技など
参加者	550名 38団体(世話人会(PTA)、青少協、サッカー少年団、大栗川スポーツ振興会、若竹会など)
事業の成果	東寺方小学校、世話人会(PTA)、青少協、サッカー少年団、大栗川スポーツ振興会、総合体育館、児童館、社会福祉協議会、近隣の自治会など37団体はもとより、国土館大学のボランティアサークルにも協力をお願いして、関東大震災級の大地震が11月30日に発生したことを想定して、避難所に想定した東寺方小学校に各家族がそれぞれ避難行進し、ガスボンベを使って炊き出しを行う訓練をして、災害対応力を養うことができました。要援護者の方にも知る範囲で声掛けをしましたが、3名だけの車椅子要援護者と7名の健常者も車椅子体験をしての避難行進になりました。近隣の料理専門学校にも協力を仰ぎ、緊急避難用料理も作ってもらえました。防災講演会は多摩市防災安全課の係長と首都大学教授をお願いし、防災意識の高揚をはかることができました。煙体験、簡易トイレの組み立て、AED体験、バケツリレー、レスキュー隊の実演見学、起振車体験10時から午後3時まで実施しました。地元第6消防団によるポンプ操法、放水実演、放水体験と機敏に行動する地元の消防お兄さんの雄姿に惜しめない拍手が送られました。防災意識の高揚がはかれたことと550名が参加できたことで地域の結束力の高まりを実感できました。この力をより住みやすい街づくりに活かしていきたいと思えます。

総事業費	198,176円
補助対象経費	198,176円
補助額	158,000円

決算内訳は、次ページ



消火器を使った消火訓練



炊き出し訓練

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	期待した効果があげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	各地における大地震のニュースに接することが多くなった昨今、いつか準備しなくてはという気持ちがあるが、行動が伴わない人が多いのが実情であった。今回の防災訓練が防災準備の誘い水になったと確信している。また、要援護者に対し地域がどのようにサポートできるのか地域住民に考える機会を与えられたと思う。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	当初 300 名の動員を考えていたが、各団体の協力応援を得て最高齢 90 歳から幼児まで 550 名の大動員を果たせたことは大成功でした。避難行進、防災講演会、煙体験、バケツリレー、レスキュー隊見学、起振車体験、地元第 6 分団消防団のポンプ操法、放水と 5 時間の大変中身の濃い催し物ができ、防災意識の高揚をはかれたと確信している。また、地域の絆づくりにも大いに役立ったと思う。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	より多くの要援護者のスムーズな把握と要援護者の避難支援体制の確立を行政の指導をもらいながら進めていきたい。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
自己資金(負担)	40,176 円	
まちづくり事業補助金	158,000 円	
収入合計	198,176 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	10,000 円	救命士
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	129,606 円	
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	20,000 円	井上料理学園
機器類の賃借(レンタル)料等	11,760 円	ガスボンベ
イベントなどの会場等の使用料	2,700 円	道路許可申請
保険料等	22,950 円	
その他必要な経費	1,160 円	通信費
補助対象経費合計	198,176 円	

事業名	多摩市における「市民協働」の研究と研究成果の公刊
団体名	多摩自由大学
事業の目的	地方分権時代を迎えて「市民協働」の必要性が喧伝されているが、その実態はどういうものか、多摩市に即して研究して報告書をまとめる。
主な事業実施内容	20年7月6日:シンポジウム「多摩市民が目指す協働関係」 20年9月21日:シンポジウム「多摩市民の環境保全と協働」 20年10月5日:シンポジウム「街づくりとコミュニティ」 20年11月16日:シンポジウム「少子高齢社会と市民協働」 20年12月14日:シンポジウム「協働社会の課題と未来」 21年2月11日:冊子「多摩市における市民協働の研究」公刊発表会
参加者	258人(パネリスト22人、聴講者236人)
事業の成果	行政と市民が協働して「街づくり」を行うことは、これからの多摩市にとってきわめて重要な課題であることは、行政のみならず多くの市民が感じているところです。しかし、その仕組みはどうなっているのか、多摩市の課題がどこにあるのか、市民に十分に認識されているとは言えません。 今回の「事業」は、その仕組みと課題を具体的に明らかにすることが目的でした。多摩市から市長、副市長、担当部長が出席し、専門家や市民と討論することによって、この目的の第一歩は果されたと考えます。

総事業費	492,023円
補助対象経費	451,841円
補助額	300,000円

決算内訳は、次ページ



9月21日のシンポジウム



2月11日の冊子公刊発表会

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	参加者の発言時間をもっと取ってほしい。(これについては第5回目のシンポジウムで配慮した。報告書参照) 教育分野についても討論の場がほしい。(シンポジウムを5回としたために教育分野は外した。学校と地域の協力、図書館・公民館などにおける市民協働など課題はあるので、機会をみて実施することが考えられる)
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	事業の成果説明に記載した通り。心残りとしては、若い世代の参加が少なかったこと。若い世代が街づくりに関心を持つようにするためには何が必要か。行政当局にも考えてもらいたい。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	

決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
参加者負担金	94,200 円	シンポジウム参加料
寄付金	7,000 円	
自己資金(負担)	50,641 円	
まちづくり事業補助金	300,000 円	
収入合計	451,841 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	120,000 円	20,000 円×3人、10,000 円×6人
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	285,841 円	報告書、テープ起こし、コピー代、用紙など
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	11,000 円	マイク・プロジェクター使用料
イベントなどの会場等の使用料	35,000 円	シンポジウム会場使用料
保険料等	0 円	
その他必要な経費	0 円	
補助対象経費合計	451,841 円	

事業名	貝取こぶし館内外及びその周辺の美化と癒しの環境づくり
団体名	貝取こぶし館 緑花委員会
事業の目的	平成 20 年度のまちづくり補助金活動で、環境整備と維持管理ができ、貝取こぶし館の利用団体や個人利用者、さらに地域住民等の花や樹木への関心と愛情を深め、癒しの場とすることができた。
主な事業実施内容	毎月第 2 日曜日：定例活動 毎月不定期活動：花木の状況により、1～2 回 貝取コミュニティセンター周辺の花壇・周辺道路の手入れ・除草・整備 多摩の野草：地域住民に寄贈と植え付けを呼びかけた 種まきの講習会へ参加
参加者	貝取こぶし館利用者及び団体、付近を通る住民等多数
事業の成果	館の利用者及び団体、付近を通る住民等から、花木についての名前や育成についての質問、賞賛等の声が昨年度よりも多くなっている。

総事業費	271,279 円
補助対象経費	251,279 円
補助額	200,000 円

決算内訳は、次ページ



花壇整備の様子



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	補助金により、館内外の環境を整備することができたので、館の利用者並びに周辺道路の利用者の関心が以前よりいっそう深まってきた。 緑花活動への協力者が増加してきた。 緑花活動中に、住民から、激励や感謝のことは、ときには個人の園芸相談までの声かけが増えてきた。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	従来の花壇の一般的な手入れと違い、用具や用土を整備することができ緑花活動がしやすくなった。なお、市の「道路整備等管理アダプト」認定を受け、花の苗を約 100 株、春秋 2 回の助成を受けて道路整備と美化を進めることができた。こうした活動が、環境整備に対する地域の関心の深まりと広がりが強くなり、地域住民の協力への参加者が増加した。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	1.多摩市内の緑花活動を行っている公的な機関(例えば、グリーンライブセンター、ひじり館等)と連携を進め、緑花委員会活動を地域住民とともに広げていきたい。 2.緑花活動に必要な肥料等は、さらに腐葉土づくりを広げて補えるように努めていきたい。 3.花壇で育てた花等の販売等で、自立資金を得ることは容易ではないので改善策を探っていきたい。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
銀行利息	79 円	預金利息
自己資金(負担)	51,200 円	
まちづくり事業補助金	200,000 円	
収入合計	251,279 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	251,279 円	花苗、用土、肥料、用具、その他
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	0 円	
補助対象経費合計	251,279 円	

事業名	ひじり館を花いっぱい「和みの広場」に
団体名	聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会
事業の目的	「ひじり館」の周辺を季節の花々で飾り、当館を訪れる人や周辺住民のための「和みの広場」にすると共に、地域のコミュニティの場として貢献して行くことを目的とする。
主な事業実施内容	通年作業：花壇清掃、散水、除草等管理作業 20年5月：バラ園視察 20年6月：花市場(鉢花交換会)開催 20年11月：一鉢コンテスト実施 20年12月：寄せ植え講習会実施
参加者	作業及び行事への参加は約40名
事業の成果	市民提案型まちづくり事業補助金の交付を受けながら、運営協議会の中では、「花壇プロジェクト実行委員会」として約10名のメンバーでこの事業を担ってきた。花壇や山野草園を含む周辺の整備も進み、季節に応じた多種の花々でこれを飾ることが出来、来館者や周辺住民からも好評を博しており、地域コミュニティの場として役割は十分に果たしているものと確信している。

総事業費	282,874円
補助対象経費	229,489円
補助額	130,000円

決算内訳は、次ページ



聖ヶ丘コミセン前の花壇



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	期待した効果があげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	今回新たに、自宅に余っている花鉢の交換を目的とした「花市場」や、正月に向けての「寄せ植え講習会」を実施し、予想以上の人の参加を得ることが出来た。次年度以降も続けて欲しいとの要望が多く意を強くしたところである。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	季節の花々で来館者の気持ちを和ませるという目的の一つは十分達せられていると思う。「花市場」や「寄せ植え講習会」などは自己資金を得る為の新しい試みであったが、幸い好評を得たので更に充実を図ると共に、新たなイベントの検討を進めてゆきたい。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	花をベースに収入を得、自立してゆく事は大変むずかしいと思うが、運営協議会の支援を頂きながら各種イベントに参画して「花壇プロジェクト」をPRしてゆくと共に、その中での収益確保の可否を模索してゆきたい。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
売上金収入	8,600 円	花市場売り上げ金
参加料収入	16,000 円	正月向け寄せ植え講習会
自己資金(負担)	74,889 円	
まちづくり事業補助金	130,000 円	
収入合計	229,489 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	229,489 円	資材、用具、消毒薬、用土、肥料、花苗など
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	0 円	
補助対象経費合計	229,489 円	

事業名	運動会、レクリエーション等の立案企画とその実施
団体名	連光寺 / 聖ヶ丘地域スポーツ振興会
事業の目的	連光寺 / 聖ヶ丘地域のスポーツ、及びレクリエーションの普及、振興を通じ地域住民のコミュニケーションと健康促進をはかる。 実施事業 ハイキング大会 地域運動会 ミニマラソン大会
主な事業実施内容	4月20日:ハイキング大会(大谷戸公園他) 10月19日:地域大運動会(聖ヶ丘中学校) 2月11日:ミニマラソン大会(あいさつ道路) 各事業の前後に実行委員会(準備打ち合わせ)
参加者	参加者:連光寺・聖ヶ丘地域住民 ハイキング大会:150名、運動会:1400名、ミニマラソン大会:300名(内競技者170名)
事業の成果	この事業を通じ連光寺 / 聖ヶ丘地域のコミュニケーションを図り親密の密度高揚と健康促進が図れた。 地域の各種団体(コミュニティーセンター、青少協、防犯協会など)と協力し、補完し合い相互の目的達成の相乗効果を目指す運動会では、地域で行われている文化活動の発表の場を提供出来た。 地域との連携強化により、多摩大学、聖ヶ丘小中学校生徒によるボランティア活動の拠点としての環境作りを実現できた。

総事業費	438,512 円
補助対象経費	438,512 円
補助額	183,000 円

決算内訳は、次ページ



運動会：聖火ランナー



運動会：招待した高齢者の前を幼児が走る

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	ハイキング大会は、子ども達からお年寄りまで参加し、まだ自然が残っている「よこやまの道」散策、ウォーキングの楽しさを体験して、お互いのコミュニケーションをとり親睦を深めた。 運動会はぞんぶんに体を動かして健康のありがたさを実感し、地域住民との親睦を深めた。3年間のプログラムの改善も軌道に乗った。 ミニマラソン大会は参加者が過去最高の180名であった。子ども達の忍耐力、体力の向上、親子のさらなる対話の場の提供ができた。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	少子高齢化に対処すべき事業企画の内容を具現化したことで、子ども達の参加の増加が見られた。又車椅子等の高齢者の招待の実現は、その目的に一歩近づいたと感じた。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	財政面では、運動会プログラムに広告協賛企業の確保、拡大が必要 自治会14団体の協力関係の維持 ボランティアの有効活用

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
ハイキング参加費	9,500 円	
ミニマラソン参加費	18,700 円	
地域協賛金	190,000 円	
銀行利息	1,212 円	
自己資金(負担)	36,100 円	
まちづくり事業補助金	183,000 円	
収入合計	438,512 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	62,000 円	竹とんぼ講師、準備体操、沖縄蛇味線演奏謝礼など
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	268,420 円	通信、プログラム印刷、資料印刷・コピー、聖火トーチ、賞状など消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	35,172 円	レンタカー
イベントなどの会場等の使用料	5,190 円	打ち合わせ：ひじり館、大谷戸公園使用料
保険料等	67,730 円	3大会分
補助対象経費合計	422,075 円	

事業名	第18回映画祭TAMA CINEMA FORUM
団体名	TAMA映画フォーラム実行委員会
事業の目的	この事業の目的は二つ。「市民による日本映画の活性化」と「『映画・映像』を通じた“まち”づくり」である。前者は 創り手と観客の交流、市民の手で才能ある若手映像作家の発掘、映画関係者と映画ファンの交流、等々を行う。後者は映画・映像を通して幅広い市民層の交流をはかることにより「市民の広場」としての役割を果たす。このことにより映像の街・TAMA を全国にアピールし活気あふれるまちづくりに貢献していく。
主な事業実施内容	11月22日～11月24日：映画上映及びトーク＜4会場＞ 11月26日～11月28日：映画上映＜2会場＞ 11月29日～11月30日：映画上映及びトーク＜4会場＞
参加者	延べ16,936人
事業の成果	延べ参加人数が昨年よりも約700人減少したが、市民が中心となって運営している全国の映画祭の中では、入場者数や上映本数といった規模から本映画祭が日本一といっても過言ではない。 毎年遠方からの参加者も多数あり、映画祭だけではなく“多摩市”の知名度を上げること、いわゆるシティセールスとしても大いに貢献している事業である。映画という幅広い年齢層に訴求する娯楽・芸術を提供し、“まちづくり”への市民参加を促す意味でも本映画祭のコンセプトである「FORUM＝広場」が果たした役割は大きいのではないかと自負する。 本映画祭は、公的資金が助成されている全国各地の映画祭やイベント事業等と比較して費用対効果(参加者一人当たりの公金の支出)の面ではかなり優れている(最小の経費で最大の効果)事業と言える。 近年より多摩市在住の若手作家もこの映画祭を通じて生まれたのを始め、劇場公開を成し遂げた作家を何人も輩出し、全国の若手作家たちのなかで TAMA のコンペティション受賞というのが大きな目標となって、多摩市(この映画祭)に目を向けてくれるようになった。

総事業費	15,352,647 円
補助対象経費	14,749,500 円
補助額	2,375,000 円

決算内訳は、次ページ



映画祭企画：ファミリーデーの会場風景



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	毎年の晩秋の風物詩として楽しみにしている市民が増えている、1年間の集大成として質の高い作品が見られるので、これからも続けてほしい、東京都多摩市といったら“芸術の街=映画祭のまち”と日本中に認知してもらうことで多摩市の知名度を上げてほしい、等の要望が寄せられている。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	遠方からの来客も多く、映画祭においては知名度はかなり高いと評価する。これは多摩市民のみを対象にする事業が多い中で文字通り多摩市発の唯一の全国向けイベントとして評価できると思う。都市(地域)間競争が激しい昨今ではこのような市民が誇れる全国向けのイベントは欠かせないし、“街”としての価値を高めること、いわゆるシティセールスとして大いに貢献していると思う。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	より多くの市民・映画ファンに協力いただけるような運営を心がけていく。また、経費を削減しても集客力を高められるような広報活動を充実していく。具体的には前者は支援会員制度の普及や地元企業を中心としたサポーター制度の確立であり、後者は経費を掛けない広報宣伝活動の工夫である。その他に開催期間を短期集中型に変えることで凝縮した企画で費用対効果を上げていくと共に近隣市への支援の働きかけもしていく。

決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
入場料	6,019,200 円	
支援金	3,400,000 円	文化庁国内映画祭支援
協賛金	850,000 円	
販売収入	272,815 円	パンフレット等売店売上
寄付金	314,000 円	支援会員会費(1口1,000円×314口)
自己資金(負担)	1,538,485 円	
まちづくり事業補助金	2,375,000 円	
収入合計	14,749,500 円	

< 支出の部 >

講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	1,162,500 円	ゲスト出演、司会者謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	3,296,800 円	印刷、会場設営、記録、宣伝
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	1,440,347 円	映写、記録、会場設営、宣伝
機器類の賃借(レンタル)料等	7,519,600 円	映写機材借上、フィルム借上
イベントなどの会場等の使用料	245,100 円	パルテノン多摩施設・備品使用
その他必要な経費	1,085,153 円	駐車場、チケット販売手数料、通信、フィルム搬送、振込み手数料等
補助対象経費合計	14,749,500 円	

事業名	「多摩」を音楽で溢れる街にしようプロジェクトver2.0
団体名	Artists Link Tama
事業の目的	<p>我々は「音楽」を一つのツールとして、まちづくりをしていきたいと考えております。現在、多摩市内で数多くのまちづくりのための事業が行われています。1つ1つの事業は、それぞれ成果を上げているとは思いますが、主催や所管が異なることで、横のつながりに乏しく、街全体の、そして継続的な大きなうねりとまでは至っていないように感じています。</p> <p>その原因は、1つには事業・団体間の横のつながり／ネットワークの不足、もう1つには多摩として人を呼び込むような共通のアイデンティティの不明瞭さ、です。</p> <p>そこで我々は、「多摩の音楽」を1つのアイデンティティとして内外へ積極的に発信していくことで多摩像を創り上げ、かつその「多摩＝音楽に溢れた街」というイメージを、地元の各団体の事業にどんどん活用化していただけるような横のつながり／ネットワークを構築していくことを最大の目的としております。</p> <p>具体的には、まず我々が主体となって、商店街をはじめとする団体と連携しながら、地元音楽家やミュージシャンを集結したイベントを実施し、多摩の活性化を支援します。</p> <p>また、現在行われている、あるいはこれから新たに行われる数多くの事業にも「音楽」を活用して集客効果を上げていただけるように協力していきます。</p>
主な事業実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週土曜日のビッグバンドの練習 ・4月13日：イベント運営協力（NHK ホール・クーペ&Shifo） ・5月18日：コスモフォーラム多摩 団地主催お祭り（音響演出協力） ・10月18日：多摩市サンクスマッチ（東京ヴェルディ主催：味の素スタジアム） ・1月31日：第4回せいせきハートフルコンサート（共催・企画制作） ・2月1日：第4回地域ふれあいフォーラム あいアイコンサート（共催） ・2月14日：第2回多摩スイングジャズオーケストラ（企画制作） ・4月14日：第2回多摩スイングジャズオーケストラ 定期演奏会（企画・制作）
参加者	約5000名
事業の成果	<p>今年度の成果として、大きく2つある。一つはビッグバンド運営を円滑に進められ、市民の方に向けた成果発表ができたこと。もう一つは自主イベント開催のノウハウ蓄積と課題点の明確化である。</p> <p>ビッグバンドは昨年度に定期演奏会を開催したこと、プロモーションが功を奏し、多摩市サンクスマッチや市内の団地のお祭りへ出演依頼を受け、多くの方々にスイングジャズを楽しんで頂けた。市内在住のプロのクラリネット奏者である鈴木正男氏が当団体の主旨に賛同して頂き、全面的な協力を得られたのが大きかった。2009年2月14日に開催した第2回定期演奏会では、250名を越えるお客様がヴァータホールに会場し、満員御礼となった。</p> <p>一方、昨年度の課題とした、蓄積したノウハウを市内各団体や他バンドが実施するイベントに提供するという点については、イベント実施・運営等のオペレーションに関するノウハウを昨年までに蓄積できたことにより、提供することが出来た。また、他団体と協力して行うことにより、可能な限りコストをかけずに実施・運営できる方法を確立しつつある。今後は、この両点を生かし、各イベントの規模の拡大により、更なる集客、地域への還元を行いたいと考える。</p>

総事業費	847,485 円
補助対象経費	847,485 円
補助額	508,000 円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることはできましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	<p>贅沢なようだが、市民は気軽に参加でき(入場料なし)、かつ、質の高いパフォーマンスを期待していると感じた。</p> <p>また、やまばとホールが閉館したことにより、中規模のホールがなくなり、観客の規模に応えられなくなりそうである。</p>
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	<p>イベントの実施・運営等のノウハウは市民団体としては、十分蓄積することができつつあると評価している。また、音楽を楽しむ場の提供として、ビッグバンドの運営も一般的な社会人バンドとは異なり、当団体がプロデュースを手がけることで、場の提供だけでなく、地域への還元活動へも目を向けることが出来、非常によい方向に進んでいると評価している。</p> <p>さらに、当団体が認知されてきていることによる、依頼等も増加しつつあり、地域に根差した活動となっていると評価する。</p>
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	<p>来年度はさらに補助率が低くなるが、収入も安定化しつつあり、今後はコストをかけずにアイデアによる質の向上を図りたい。また、当団体として、ビッグバンドは非常に優良なコンテンツに成長したので、うまく活用し、地域に根差した愛されるバンドにしていく必要があると考えている。</p> <p>一方、自主イベントの開催事業に関しては、一つのイベントに、さらに多くの団体・地域住民を巻き込んだ規模の大きなイベントを構築・開催していかなければならないと考えている。</p>

< 収入の部 >

項目	金額	内容
出演料	30,000 円	コスモフォーラム多摩
イベント運営委託費	130,000 円	せいせきハートフルコンサート
チケット販売収入	19,500 円	地域ふれあいフォーラム
自己資金(負担)	159,985 円	
まちづくり事業補助金	508,000 円	
収入合計	847,485 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	53,000 円	アーティスト謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	265,075 円	チラシ印刷、ポスター印刷、新聞折込、広告、記録、コピー、消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	120,130 円	イベントPA費用、記録費
機器類の賃借(レンタル)料等	172,000 円	楽器レンタル
イベントなどの会場等の使用料	234,420 円	民間施設、公民館
その他必要な経費	2,860 円	通信費、演奏使用料
補助対象経費合計	847,485 円	

事業名	東寺方にホタルを復活し檜の森を守る
団体名	東寺方自治会
事業の目的	ホタルの復活を通じて、より住みやすい自然環境を取り戻すとともに子供たちに命の大切さを認識させる。あわせて地域連帯の絆強固にしたい。
主な事業実施内容	4月6日:桜祭で“福ホドル”400個販売 6月8日:ゲンジホタル今年最初の1匹を確認 6月21日:ホタルの夕べ講演会開催(140名の親子づれ参加) <元多摩動物公園「荻野昭氏」の講演> 6月22日:ヘイケホタル幼虫を放流
参加者	
事業の成果	6月21日のホタルの講演と夕べには140名の親子が参加して、ホタルの癒しの光を感動を持って観賞してもらえた。6月8日から7月28日間での長い間にわたり、ホタルを観賞できたのは、大きな成果である。ただ、次の候補学校から、対応しかねるとの回答を得たのは大変残念である。今後も地道に交渉を継続していきたい。

総事業費	140,918円
補助対象経費	140,918円
補助額	84,000円

決算内訳は、次ページ



東寺方小学校谷戸池の整備

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	小学校の校庭に地域のボランティアでホタルが復活したことで、産まれて初めてホタルを目にしたことも、親が大きな歓声をあげていたのが大変印象に残っている。ホタルという貴重な生き物を大切に育て、他の小学校の児童と親に見せてあげたい。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	ホタルの夕べでホタル講演後に、140名全員で谷戸池に行きゲンジホタル15匹ほどの飛翔する光を觀賞出来たことは主催者として正直安堵の気持ちであった。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	東寺方小学校とのかかわりをさらに強めるとともに他の小学校にもホタル復活の取り組みを行っていききたい。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
福ホドル収益金	11,520 円	
自己資金(負担)	45,398 円	
まちづくり事業補助金	84,000 円	
収入合計	140,981 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	30,000 円	講演料
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	107,348 円	谷戸池浄化のためのクレソン、竹炭、消耗品など
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	3,570 円	通信費、打合せ費など
補助対象経費合計	140,918 円	

事業名	こども古典芸能体験教室
団体名	多摩市古典芸能に親しむ会
事業の目的	古くから受け継がれてきた優れた伝統文化である古典芸能を体験することで、伝統文化に対する関心を深め、豊かな感性を育むことを目的とする。
主な事業実施内容	5月19日校長会連絡会にて事前の説明 東愛宕中学校:中3選択音楽 青陵中学校:中2・中3選択音楽 落合中学校:中2選択音楽 永山中学校:中3体験授業 北豊ヶ丘小学校:小6体験授業 南鶴牧小学校:5・6年生 大松台小学校:5・6年生
参加者	中学校4校、小学校3校
事業の成果	中学校では、音楽の必修では学年全員が琴・三味線を体験し、ほたる、かごめ、さくらなどを演奏できるようになった。選択音楽では2年目の生徒は、高度な技術を習得し、発表会で演奏した。 小学校も、琴、三味線、太鼓、笛などを体験し、基礎を習得した。 礼儀作法から始め、日本の伝統音楽の良さを認識することができた。

総事業費	1,590,695 円
補助対象経費	1,350,695 円
補助額	807,000 円

決算内訳は、次ページ



琴、三味線の発表練習

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	期待した効果があげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	・ 特に中学校の音楽授業でのニーズがある。体験するだけでなく伝統文化に対する興味を引き出すことも出来るので、もっと時間数を増やしてほしいという学校もあった。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	・ 初めて体験した生徒達には新鮮な感動を与え、選択音楽の生徒達は技術の向上が目覚しく継続してきた成果も出た。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	・ 行政との連携を進めて行く。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
参加者負担金	35,000 円	
協賛金	250,000 円	
自己資金(負担)	258,695 円	240,000 円は補助対象外経費に流用
まちづくり事業補助金	807,000 円	
収入合計	1,350,695 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	1,000,000 円	10,000 円 × 112 回の内 100 回分
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	150,695 円	チラシ印刷、消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	200,000 円	三味線、琴レンタル
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	0 円	
補助対象経費合計	1,350,695 円	

事業名	運動会他 イベントの企画・立案とその実施
団体名	貝取地域スポーツ振興会
事業の目的	「市民とスポーツやレクリエーション等の振興を通してコミュニケーションと健康維持・促進を図る」目的で事業を行う。 特に高齢者と共に親睦に密度を高める為にふれあいの場作りや、地域団体と協力して子ども達のボランティア活動の環境作りも行っている。
主な事業実施内容	7月6日:ソフトボール大会実施 10月19日:運動会実施 2月1日:歩こう会実施
参加者	ソフトボール大会:180名 運動会:800名 歩こう会:45名
事業の成果	事業を通して、地域のコミュニケーションを図り、健康促進の手伝いや日頃なかなかコミュニケーションが計れない方々のふれあいの場となった。 又地域各団体と協力しあい、相互の目的達成の為に環境作りの実現の場となった。(ボランティア活動・世代間交流を含む)

総事業費	799,787 円
補助対象経費	389,118 円
補助額	202,000 円

決算内訳は、次ページ



運動会各競技

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねできた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	1. 地域のコミュニケーションを図りたい(仲間・友達づくり) 2. 日頃の運動不足を解消したい 3. 高齢者が歩くことに実感し、健康づくりをしたい
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	1. 参加しやすい事業が企画でき、展開できたと思う 2. 健康づくり、友達づくりができ、親睦のよこびを体験してもらえた 3. 継続を求める声が多く評価できる 4. 中止(天候により)となった事業は反省点として来期は検討する
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	1. 進む高齢化に向けて参加意欲を高める工夫をしながら、地域に即した事業の展開と資金面で自立は難しいが会費アップも考える 2. 継続事業については、一定額補助金(昔のように)制度が望ましい 3. 振興会でなければできない生涯スポーツや地域世代間交流の場作りが展開できるよう努力したい

決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
ソフトボール大会参加費	14,000 円	@2,000 × 7 チーム
事業協賛金	20,000 円	地域団体より
歩こう会参加費	16,000 円	@150
本補助金以外の助成金	55,000 円	商店広告代
自己資金(負担)	10,118 円	
まちづくり事業補助金	202,000 円	
収入合計	389,118 円	

< 支出の部 >

人件費	30,000 円	ソフトボール審判、運動会救護
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	30,000 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	176,648 円	ポスター・チラシ、消耗品、通信費
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	35,000 円	広報車、放送機材
イベントなどの会場等の使用料	4,070 円	コミセン、公園、学校
保険料等	98,000 円	傷害保険
その他必要な経費	5,400 円	通信費
補助対象経費合計	389,118 円	

事業名	市民製作映画『多摩ニュータウンわたしの街』上映
団体名	多摩ニュータウン映画製作委員会
事業の目的	わたしたち委員会のテーマは、「発信しよう！ふるさとニュータウンの元気と誇り！」です。2008年3月に完成した市民の手づくりドキュメンタリー映画『多摩ニュータウン わたしの街』を、年間をとおし多摩市内および近郊で実施し、多摩市民としての誇りと様々な地域との交流をとおして新たなまちづくりの可能性を生む。
主な事業実施内容	2008年4月13日：永山公民館にて3回上映(試写会) 2008年4月20日：関戸公民館にて1回上映(試写会) 2008年6月26日：永山ハイツ自治会にて1回上映 2008年6月27日：永山公民館にて3回上映 2008年9月11日：パルテノン多摩小ホールにて4回上映 2008年10月29日：多摩市市民協働研修にて上映&パネルディスカッション 2008年10月30日：恵泉女学園大学にて1回上映 2008年11月13日：内幸町ホールにて23区及び近郊地域向けに上映(試写会) 2008年12月14日：板橋区産業会館にて上映(ワーカーズコープ全国総会) 2009年2月1日：関戸公民館にて1回上映(地域ふれあいフォーラム) 2009年3月1日：新都市センターホールにて3回上映(斉藤院長トークセッション) 2009年3月22日：新都市センターホールにて3回上映(斉藤院長トークセッション)
参加者	前期入場者：1336人、後期入場者：1213人 合計：2549人
事業の成果	上映会には多摩市民を中心に、市内外から様々な方が来場。アンケート(回収率：入場者数のほぼ3割)による映画の感想等は、ニュータウンに長く住んでこられた方には、懐かしさとともに老後や介護などの現実をどうしていくかという思いが多くつづられている。「この街が好きです」「自分に何ができるか」「何かをしたい」といった肯定的・好意的なものが多いなか、「自然や祭り、子どもたちや若者のことなどもっと触れて欲しかった」「オールドタウンそのものだ」という意見もある。本映画の目的である「お年寄りの姿をたくさん丁寧に描くことによって、若い人たちに伝えたいメッセージをちりばめる」は、観賞した映画学校の学生が、委員会に相談しながら「多摩ニュータウン」をテーマに卒業作品として制作している点や、法政大学社会学部津田ゼミの学生による「ニュータウンよ、どこへいく」という論文にうかがえる。「発信しよう！ふるさとニュータウンの元気と誇り！」という本委員会のテーマは、国土交通省やURをはじめ共感を得、広がりを見せている。『キネマ旬報』2008年12月号や『日刊建設工業新聞』などの映画評にも取り上げられる。また、優れたドキュメンタリー映画を観る会主催「見よ！この人を」に招聘され、下高井戸シネマ(2009年4月24日～)にて初の劇場上映を予定している。4/13、20_750人 6/21_40人 6/26_40人 6/27_235人 9/11_271人 10/29_90人 10/30_70人 11/13_180人 12/14_500人 2/1_23人 3/1_170人 3/22_180人 合計_2549人 3月1日、22日新都市センターホールで開催した上映会では、地域医療をテーマに医師のトークショーをセットし、好評を博した。

総事業費	2,221,406円
補助対象経費	1,992,842円
補助額	1,195,000円

決算内訳は、次ページ



映画「多摩ニュータウンわたしの街」ロゴマーク

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	あまりできなかった
あまりできなかった理由	上映会準備などに必要な専断的な事務作業がはかどらなかった。どの程度の上映会が自分たちにできるかの見込があまかった。一般公開に向けた外渉活動の度合い。
計画時に期待した効果をあげることができましたか	あまりあげられなかった
期待した効果が、あまりあげられなかった理由	アンケートの反応やその後の広がりから、映画の表現内容的には「概ねあげられた」と言えるが、入場数(=収入)からくる効果としては「あまりあげられなかった」と言わざるをえない。その理由は上記理由のとおり。
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	アンケートによる映画の感想等は、NTに長く住んでこられた方には、懐かしさとともに老後や介護などの現実をどうしていくかという思いが多かった。「この街が好き」「自分に何ができるか」「何かをしたい」といった肯定的・好意的なものが多い中、「自然や祭り、子どもたちや若者のことなどもっと触れて欲しい」「オールドタウンそのものだ」という意見もあった。特老施設など出張上映の依頼やDVDの貸出・販売の希望があった。一般公開での上映料金設定との折り合いで実現できなかったところもある。市内大学には特別価格(条件付き)で販売。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	「お年寄りの姿を丁寧に描くことによって、若い人たちに伝えたいメッセージをちりばめる」という本映画の目的は、観賞した映画学校の学生による「多摩ニュータウン」をテーマにした卒業作品製作や、法政大学社会学部津田ゼミの学生による論文「ニュータウンよ、どこへいく」などにつながっている。全体に上映回数と入場数をもっとあげる手法を考え、この映画の市民サポーターを増やす必要がある。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	市民サポーターを増やすためには、市内での定期上映会を展開したい。自立の手法は上映料・入場料の収益にかかっているのもっと対外的上映を増やす。「多摩ニュータウン」の活動実践を広く発信し、認知を広げ、評価を受けることが、結果的にサポーターを増やすことでもある。次年度頭に初の劇場公開がスタートするので、積極的に外に向けて宣伝していきたい。

決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
入場料など	327,080 円	入場料の1000円の内、120円を本事業に充て、残りは製作費に充当した
自己資金(負担)	470,762 円	
まちづくり事業補助金	1,195,000 円	
収入合計	1,992,842 円	

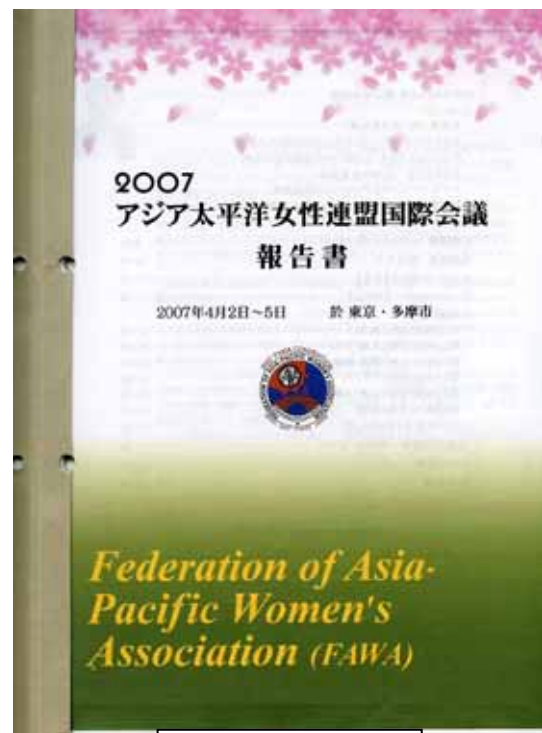
< 支出の部 >

講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	19,500 円	地域ふれあいフォーラムでALTとコラボした時の出演料
チラシ・ポスターの作成費や印刷費、消耗品等	674,683 円	チケット・チラシ・ポスター、消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託	762,000 円	ホームページデザイン管理、上映映写技師
イベントなどの会場等の使用料	54,000 円	永山・関戸公民館
その他必要な経費	482,659 円	広告宣伝費、通信費、振込み手数料
補助対象経費合計	1,992,842 円	

事業名	アジア・太平洋女性連盟国際会議
団体名	プロGRESS・ジャパン
事業の目的	国際相互理解、特にアジア太平洋地域女性達と多摩の女性達の共通問題における理解と交流促進を目的とする。
主な事業実施内容	アジア・太平洋女性連盟国際会議開催 4月3日:国際会議開会式、基調講演:マドウ・バラ・ナス氏、分科会 4月4日:基調講演:堀内光子氏、分科会 4月5日:分科会報告、閉会式、さよならパーティー
参加者	国外約120人 国内(P.J.、一冊の会、エフエム多摩、東京都女性海外視察団の会、ソロプチミスト 他)
事業の成果	私共団体の考えである「国際会議をもっと身近なものとして一般市民に理解して欲しい」と云う願いが通訳機を通して内容を把握出来、自分達の問題としての意見を述べる事が出来た。そこに顔と顔で語り合う大切さと必要性を強く感じたと多くの参加者からの声を頂き、資金と人材があれば、その可能性をもっと充実することが出来ると云う確信を得た。今回を第一段階として又このような国際会議をして欲しいと云う希望者が多くいましたが、資金的面でかなり難しいのではないかと思います。せめて通訳設備があればと残念に思っております。

総事業費	1,665,047 円
補助対象経費	1,038,955 円
補助額	623,000 円

決算内訳は、次ページ



報告書(日本語版)

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	あまりできなかった
あまりできなかった理由	コンピュータ関連機種が落雷の為、破損及び事務・報告書作成担当者の死去による遅れ
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	あまりあげられなかった
期待した効果が、あまりあげられなかった理由	コンピュータ関連機種が落雷の為、破損及び事務・報告書作成担当者の死去による遅れにより報告書作成が大幅に遅れ、報告会の開催が年度内に実施できなかった。
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	多摩での大きな国際会議を同時通訳が入ったことで多摩市民等が自由に発言出来たことにより国際会議を身近なものとして捉えることができたことと多くの評価をいただいた。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	約半分が達成できなかったこと。すなわち報告書作成が遅れた為、報告会が出来なかったこと、資金不足も理由の一つではありますが。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	市への要望として国際会議がもっと身近なものとして開催できるよう、通訳機・ブースの設置の必要性を感じる

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
自己資金(負担)	415,955 円	
まちづくり事業補助金	623,000 円	
収入合計	1,038,955 円	

< 支出の部 >

人件費	203,000 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	10,000 円	原稿執筆料
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	315,585 円	報告書(日本語版)印刷等
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	501,500 円	英語による報告(基調講演・分科会)を日本語に翻訳(テープ起こし)
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	8870 円	郵送料
補助対象経費合計	1,038,955 円	